

ヤマビル対策の

取組みについて (第2報) (91)

秋田署新城森林官 金野 要一

はじめに

当地域におけるヤマビルの生息範囲は、年々拡大し、当森林事務所の全域及び隣接する仁別森林事務所の一部にも生息が確認されております。

このため吸血被害も年々増加し、山に働く人々の労働安全上、ゆゆしき事態となって来ております。この対策をどのようにしたらよいが、昨年度は月別、天候別の生息数確認、木酢液の採取と木酢液使用による忌避効果について、調査し発表しましたが、今年度も引き続き、1. ヤマビルが増加していないか考え昨年度生息数の多かった7～9月の生息調査、2. 木酢液を利用しヤマビルを作業地から遠ざけることが出来ないか、また長靴を履いた場合の対策として有効手段はないか、3. ヤマビル伝播経路の確認の調査を行ったので発表します。

1. ヤマビルの生息調査について

ヤマビルの生息範囲が年々拡大しているなかで、当森林事務所内のヤマビルが増加しているのではないかと、7～9月作業中の付着状況を昨年度同様の手段で調査しました。

その結果、昨年度との比較は次表のとおりであります。

表-1 ヤマビルの月別生息確認数

月 別	4 年 度 (作業者 5 名)									最 高 気 温 平 均 (度)
	晴			雨 及 び 曇			計			
	日 数	確 認 数	1人1日 当たり 確認数	日 数	確 認 数	1人1日 当たり 確認数	日 数	確 認 数	1人1日 当たり 確認数	
7	5	31	1.24	12	504	8.40	17	535	6.25	$\frac{25.6}{23-30}$
8	11	142	2.58	3	77	5.13	14	219	3.13	$\frac{28.0}{23-32}$
9	11	64	1.16	9	104	2.31	20	168	2.80	$\frac{23.3}{17-31}$
計	27	237	1.76	24	685	5.71	51	922	3.62	$\frac{25.6}{17-32}$

表-2 ヤマビルの月別生息確認数

月 別	5 年 度 (作業者 3 名)									最 高 気 温 平 均 (度)
	晴			雨 及 び 曇			計			
	日 数	確 認 数	1人1日 当たり 確認数	日 数	確 認 数	1人1日 当たり 確認数	日 数	確 認 数	1人1日 当たり 確認数	
7	8	27	1.13	9	217	8.04	17	244	4.78	$\frac{24.3}{20-30}$
8	9	49	1.61	4	57	4.75	3	106	2.72	$\frac{25.3}{20-32}$
9	11	32	0.97	8	52	2.17	19	84	1.47	$\frac{22.6}{16-27}$
計	28	108	1.29	21	326	5.17	49	434	2.95	$\frac{24.1}{16-32}$

調査結果からは昨年同様、月毎では7月が最も多く1人1日当たり約5匹を確認しており、また7月29日(雨)には69匹と、1人当たり23匹(昨年は7月23日150匹 1人当たり37匹)となっておりますが、各月とも昨年に比べて確認数が減少しております。

調査箇所は昨年とほぼ同じで、調査箇所による影響はほとんど考えられないことから、今年度は冷夏により昨年度に比較し各月とも、 0.7° ~ 2.7° の低温がヤマビルの活動をにぶくしたのではないかと考えております。

2. ヤマビルの被害対策

(1) 昨年度の研究発表会で蜂対策の誘引捕殺器を逆の発想にたち、木酢液を溶液として使用することにより、ヤマビルを作業箇所から遠ざける効果が期待できないか、今後の課題として取り組みたいと発表したことについて、7月2日(金)下刈り箇所の歩道上に木酢液を入れた、容器を地上30^om付近に吊して、5m間隔に10箇所設置しましたが、月曜日、火曜日と確認したところ、容器の真下にヤマビルがうようよしておりきした。また同じように歩道上3箇所に布に木酢液を浸して直接地面に置きましたが、この付近にはヤマビルはおりませんでした。

このようなことから木酢液は散布したり、塗布することで忌避効果があり、静止状態で直接ヤマビルと接触しない場合は効果がないことが明らかになりました。

(2) 安全長靴使用の際の対策について

雨天及び秋期における、長靴使用の際の被害対策をどのようにするかについて、当森林事務所及び製品事業所の職員の意見を聴取したところ、ヤマビル対策用として配布されている、塩袋付スパッチの予防効果からして、サポーターに塩を塗布して、長靴の上に被せたらどうかとのことから、ヤマビルの活動も大分鈍くなって来ていたが、9月20日(月)五城目営林署と境をなしている新城林道付近で、サポーターに塩を塗布して右足につけ、左足にはサポーターをつけない状態で調査したところ、左右同数のヤマビルの付着がありましたが、サポーターから上には這い上がらなかったの、使用効果があることを確認しました。

ただサポーターに塗布した塩は雨降りでは洗い流されること、朝露の草むらでは効果がなくなることから、サポーターの材料の選択、あるいは何らかの塩分持続の工夫が必要と考えております。

3. ヤマビル伝播経路の確認調査

(1) ペット用缶詰を使用した調査

温血動物の血を吸うことで成熟産卵するという、ヤマビルの生態が本当 動物に付着して、生息範囲が広がるのかを確認するために、ドックフードを使用した調査を行いました。

8月30日(月) 獣道でヤマビルの多く生息している林地に、1.2m四方の透明ビニールを敷きその上に塩を撒き、中央にドックフードを1缶分入れた容器を設置して、翌日見回ったところ、動物がドックフードを食べている間に、落下したと思われるヤマビルの死骸2匹が確認されました。

ヤマビルは血をタップリと吸いこむと、体重の何倍もの重さとなって落下するので塩の上に落下すると体が溶け血が拡散するのではっきり確認できます。

2日目は1匹確認されましたが、3日目からは動物に警戒され以後、動物が現れないので調査を打ち切りました。

(2) ジャガイモを使用した調査

ヤマビルがカモシカに付着して、その移動と共に広まったのではないかと思い、(1)と同じ要領で調査しました。(カモシカは国の天然記念物として手厚く保護されているので、捕獲して調査することが出来ないからです。)

調査に当たっては、カモシカの好物がジャガイモであろうということで、カモシカの休憩場所に容器にジャガイモを入れ設置しましたが、何日経過してもカモシカが現れないので調査は失敗しました。

以上の調査からカモシカの調査は失敗したものの、ヤマビルの伝播経路は温血動物だろうと言われて来たことが、この調査により実証されたと考えております。

また、調査はしてありませんが、生産事業地の移動に伴い資材に付着して広まることも考えられます。

まとめ

今年度も試行錯誤しながら調査に取り組んだところでありますが、今年最初にヤマビルの吸血被害にあったのは、比較的早い時期の4月2日で最高気温8度で、雨後曇りの寒い日でしたが、冷夏でヤマビルの活動が鈍く、調査するには良い条件でなく、期待した成果を得ることが出来ませんでした。年々生息箇所が拡大していく

なかで、この被害防止の対策が急がれるところであり、皆さん方のご意見ご指導をいただきながら、今後でも取り組んでまいりたいと考えておりますのでよろしくお願い致します。